

多くの稚魚や稚ガニ

■多くの小さな生物

今回の調査ではマゴチ (Fig.1) やヒメハゼ (Fig.2), エビジャコの仲間 (Fig.3), ガザミ (Fig.4) の稚魚・稚ガニを採集した。ガザミは甲幅5mm~2.5cmであった。昨年は8月の調査で抱卵したヒメハゼやエビジャコの仲間を採集しており (レポートNo.227参照), 生物の産卵, 成長は昨年より早いようである。イシガレイも今年は6月26日の調査で採集したのが最後であった。今後干潟で成長し成体となるのであろう。マゴチは数多く採集できたので (Table.1) 次回の調査と比較して1ヶ月での成長を確認したい。

全長(cm)	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6	平均
採集数	1	4	0	1	1	1	5	5	1	4.3cm

(Table.1 マゴチの全長と採集個体数)



(Fig.1 マゴチ)



(Fig.2 ヒメハゼ 全長2.5cm)



(Fig.3 エビジャコの仲間)



(Fig.4 ガザミ 甲幅2.5cm)

■ソトオリガイの確認

津波で激減したソトオリガイを確認した。軟体部が貝殻からはみ出ている。震災後, アサリやイソシジミは採集したが, ソトオリガイは今回が初めての確認である。



(Fig.5 ソトオリガイ)

(佐藤 賢治)